

令和四年度 奈良県教育長賞

身近な納税

奈良県立奈良南高等学校 一年 榎谷 爽明

私たち高校生に身近な税金は消費税です。なぜなら、買い物をしたときに一緒に支払っているからです。

消費税の税率は、最初は三パーセントでした。それが今は十パーセントまで上がりました。どうして消費税率がどんどん上がってきたのか調べました。

消費税とは、「消費一般に広く公平に課税する間接税です。」とあります。だから、買い物をしたときに、私たち消費者も消費税を払っています。

では、消費税は、どのような使い道がされているのかというと、ほとんどは社会保障に使われているとあります。税金は他に、住民税、所得税、自動車税、そして固定資産税など多くの税金がありますが、それらの税金は経済を回すためにも簡単に税率を上げることができません。そこで、一番税率を上げることができたのが消費税でした。

ただ、消費税はどんな年齢であろうが十パーセントの税金を納めることになります。それは公平といえは公平ですが、負担が大きい人もいると思います。例えば、生活に困っている人、年金暮らしのお年寄り、収入のない子どもたちなどです。消費税も、所得税や住民税のように収入に応じて税率が変わるシステムであれば、負担が大きい人たちにとって生活がしやすくなると思います。

国民の一人一人から集められた消費税は百兆円を超えるそうです。そのなかから、公共施設、道路の整備、社会福祉、教育環境の整備、科学技術の発展など、様々な公共サービスのために使われています。私たちが支払った消費税が社会から必要とされていることが分かります。

また、役所、警察、消防など地域社会の公共施設も、税金のおかげで、私たちが安心して公共サービスを受けることができます。納税は国民の義務に定められているように、私たちが安心してくらすために必要不可欠であることが今回消費税を調べることを通じて学ぶことができました。今回のことをきっかけに税金のことを意識して生活していこうと思います。